

発行によせて



平成30年は市制施行60周年の記念すべき年になります。この60年で、科学は大きな進歩を遂げ、社会情勢や環境も大きく変わりました。経済はそれに呼応し、その時々に応じ、国から地方へ新たな方針や施策が示されました。特に、この10年は、

地方の主体性を尊重する"地方分権"が進み、さらに、人口減少社会に対応するための"地方創生"の取り組みがますます求められることとなりました。その結果、地方では、自分たちの住むまちの魅力や独自性を発揮した、定住人口と交流人口の拡大を目指す自治体間競争の時代に突入し、現在、本市においても"羽咋創生"を掲げ、オンリーワンのまちづくりに取り組んでいるところであります。

この"羽咋市のあゆみ"では、"財政再建"から"はくい再生"、 そして"羽咋創生"までの10年の本市の軌跡を中心に、60年の あゆみを振り返ります。これまでの市の取り組みについて理 解いただき、今後の市勢発展にお力添えを賜る一助となれば、 幸甚に存じます。

羽咋市長山辺。芳宣

背景写真 千里浜なぎさドライブウェイ ロ木で唯一東でまることができる 羽吹声が落る

日本で唯一車で走ることができる、羽咋市が誇る観光資源



再建 から 再生

財政再建

 $(H21 \sim H23)$

国の"三位一体の改革"の影響などから、市の当該年度の実質的な財政収支を示す実質単年度収支が平成16年度から6年連続で赤字状態に陥ったことを受け、"庁内改革""歳出改革""歳入改革"を敢行。

"財政再建緊急プログラム"を 策定して、組織と職員給与を コスト減の視点で改革し、全 ての事業を見直し、事業費の 削減を実施。 平成 実質 黒

H21



3本柱

- 人件費の削減
- 補助金・奨励金の削減
- ごみの有料化を主とした効果額は

約△5.6億円に



PICK UP

平成21年~26年 (2009年~2014年)



22年度決算で 単年度収支の 字化を達成

企業進出



- ・創和テキスタイル(株) (釜屋町) (H24.4表明、H24.12完成)
- ・重光商事㈱羽咋物流センター(新保町) (H24.9表明、H25.7完成)
- ・㈱モンベル北陸総合センター(旭町) (H24.9表明、H27.2完成)

H23.3の東日本大震災を受けて、 安全・安心なまちづくりを最重点施策に

羽咋中 新校舎

(H24.11着工、H27.10竣工)



余喜小 新校舎

(H26.7着工、 H27.10竣工)



羽咋すこやかセンター

(H24.9着工、H25.7竣工)

H24~ 防災行政無線を 増設、デジタル化

はくい再生

 $(H24 \sim H26)$

引き続き財政再建に努めながら、 活力あるまちづくりを推進する ため、

- ①安全安心で環境にやさしいま ちづくり
- ②地域資源を活用した交流人口 の拡大
- ③定住人口の確保と少子化対策 の推進
- ④協働によるまちづくりと財政 健全化の推進
- の4項目を重点施策とした"は くい再生プログラム"を策定し、 新たなまちづくりを始動。

H24

H26

その他の主な出来事(平成21年~平成26年)

平成21年

8月 矢追純一さんがコスモアイル羽咋の名誉館長に就任

11月 県道若部川原線の的場跨線橋が開通

平成22年

3月 国道415号羽咋バイパス I 期工事区間供用を開始

10月 ねんりんピック石川2010 (剣道競技) を開催

12月 木村秋則氏自然栽培実践塾を開塾

平成23年

2月 約50年ぶりに羽咋市にトキが飛来

3月 第5次羽咋市総合計画を策定

4月 可燃ごみ全量有料化、納税組合の廃止

6月 能登地域4市5町が世界農業遺産に認定

平成24年

1月 寺家遺跡が国の史跡に指定される

7月 ふるさと納税「美しいふるさと応援団(UF〇団)」を開始

10月 『新修羽咋市史近現代資料編』刊行

平成25年

5月 トキが眉丈山に飛来

7月 市指定ごみ袋制がスタート、市がFacebookを開始

10月 サンライズ・サンセット・ツーリング・ラリーを初開催

平成26年

2月 市役所窓口を一部民間委託

3月 市が千里浜宿泊施設(現ちりはまホテルゆ華)を取得

4月 羽咋市が過疎地域に指定される

月 第1回はくい花火大会を開催

オンリーワンの まちづくり目指して



H21.9~10 財政再建緊 急プログラムの詳細を説 明するため、市内各地区 で地区 懇談会を開催





PICK UP

平成 27 年 ~ 30 年 (2015 年 ~ 2018 年)

創生から未来へ

羽咋創生 (H27~)

人口減少の抑制と地域経済の好循環を図るために、平成27年度から"がんばる羽咋創生プログラム"に基づく施策を展開。平成27年10月には、市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議で"羽咋市人口ビジョン"と"がんばる羽咋創生総合戦略"を策定。

2060年に本市の人口を13,000人程度に維持する目標を設定し、本市の特性・特徴を生かしながら「しごと」をつくり、「しごと」が「ひと」を呼び、「まち」に活力を与え、好循環を生み出す事業を重点化して実施。





毎年、総合戦略の効果を 検証

しごとをつくり



就農、就職に つなげる

自然栽培農業をはじめとする 就農の受け入れ体制を確立し、 企業誘致や起業支援の推進に より、雇用を創出する

羽咋の魅力を全国へ!!



自然栽培の聖地化へ

H28.8 のと里山自然栽培部会、JAはくい、市が "農業の6次産業化に関する基本合意書"を締結 H28.9 自然栽培にロボット、lotの活用を目指 し、邑知の郷公園に会宝産業㈱が進出決定 H29.2 はくい式自然栽培実行委員会を発足



のと里山海道、北陸新幹線の金沢開業が交流人口拡大を後押し

平成25年3月末に能登有料道路が無料化して"のと里山海道"となったことや、平成27年3月の北陸新幹線の金沢開業は、道の駅のと千里浜を核とした交流人口の拡大に関わる取り組みを大きく後押し。

ひとの流れをつくり



交流人口、 定住人口を拡大

道の駅のと千里浜を拠点に羽 昨の魅力を発信して、若者と 子どもたちが夢と希望を持て る地域社会を創造し、交流人 口、定住人口の拡大につなげ る

持続可能なまちなつ



地域包括ケア、 市民主体の まちづくり

健康寿命延伸のために地域で 支え合う仕組みを構築すると ともに、行政主導ではなく、 市民主体のまちづくりを目指

羽咋で始める新たなストーリー



若い世代

新たな

結婚

羽昨での スタート を後押し

出産、子育て

移住をサポー

トし、若者が

住みやすい環

境を整備

出産、子育て、教育に手厚い支援



の推進、交流人口の拡大

H29.7 道の駅のと千里浜 オープン

観光客に市の食の魅力をPRし、交流人口 の拡大を図る"地方創生の拠点施設" 農業の6次産業化と地域商社機能の推進 のほか、観光情報を発信する役割も併せ

観光資源の魅力 掘り起こし

ビエ産業の先進地に



H27.10 食肉処理施設が稼働

H29.12 市のジビエ産業をけん引する 合同会社"のとしし団"が設立され、獣害 のイノシシを特産品へ転換する発想で県 内でもいち早くジビエ産業を展開中

H28.2 千里浜なぎさドライ ブウェイが大手旅行口コミサ イトから日本のベストビーチ に選ばれる

H30 妙成寺の五重塔が建立 400年を迎える

その他の主な出来事(平成27年~平成30年)

平成27年

- 4月 羽咋市初の地域おこし協力隊に辞令
- 第1回峨山道トレイルラン開催
- ㈱泰生が企業進出を表明
- 11月 自然栽培とジビエを味わう会を開催

平成28年

- 4月 市内4店舗で自然栽培米を使ったお菓子 "はねくう羽咋"を発売
- 姉妹都市提携30周年を記念し、群馬県藤岡 市からモクセイが贈呈される
- 10月 酒井・本江地区のほ場整備が完工

平成29年

- 2月 シンポジウム"妙成寺の美力と不思議"を開催
- 神子原地区が景観形成重点地区に指定される 5月
- 障害者が自然栽培をサポートする農福連携が スタート
- 10月 滝地区のほ場整備が完工
- 11月 シンポジウム"寺家遺跡を「知り、守り、伝え る。| "を開催
 - 地方創生尽力で市が総務大臣表彰を受賞
- 12月 永光寺参道に水飲み場を新設

平成30年

- 1月 栗田HT(株)が事業拡大を報告
- 邑知の郷公園にJAはくいの園芸総合集出荷 場が完成
- 7月 市制施行60周年記念式典

羽咋市のあゆみ〔1958~1988(昭和33年~63年)〕

昭和33年

7月 市制施行・初代市長に上井彦之焏氏就任

11月 折口信夫博士父子の歌碑建立(寺家町)

昭和34年

10月 市制施行後、初の市勢要覧刊行

昭和35年

2月 七尾線南羽咋駅開駅

10月 市商工会発足

昭和36年

4月 公民はくい廃刊・広報はくい創刊

昭和37年

- 1月 市消防署発足
- 4月 県立羽咋工業高等学校開校
- 7月 七尾線羽咋駅前広場完成
- 10月 千里浜海岸に大伴家持歌碑建立
- 11月 市立羽咋中学校完成

昭和38年

- 6月 千里浜海水浴場が県下初の公営に
- 7月 羽咋斎場完成
- 10月 羽咋ライオンズクラブ発足

昭和39年

- 2月 羽咋青年会議所発足
- 3月 羽咋電報電話局の電話自動改式となる
- 8月 千里浜海岸に市営レストハウス開設
- 10月 千里浜郵便局開局

昭和40年

6月 市立余喜小学校完成

昭和41年

- 2月 七尾線羽咋駅新駅舎完成
- 5月 し尿処理場完成
- 6月 市上水道完成

昭和42年

6月 農協有線放送電話開通

昭和43年

7月 市制施行10周年記念式典

御坊山住宅団地完成

市域内9.790haが能登半島国定公園に指定

国営邑知潟干拓事業が完成

11月 市長に西橋義一氏就任

昭和44年

1月 公立羽咋病院完成

市消防署が救急業務開始

- 2月 市社会福祉協議会設立
- 5月 移動公民館「あすなろ」が開館

昭和45年

- 7月 市立臨海学校開校
- 8月 第1回「羽咋まつり」開催
- 11月 市役所が旧羽咋高等学校校舎へ移転

昭和46年

4月 市立越路野小学校校庭で、ホクリクサンショウウオ が初めて発見される

昭和47年

4月 新羽咋市農業協同組合発足

羽咋郡市広域圏消防本部発足

県立羽松高等学校開校

県立羽咋女子専門学校開校

- 6月 国立能登青年の家開所
- 北陸鉄道能登線廃止 8月 市文化会館完成
- 11月 市長に本吉二六氏就任

昭和48年

6月 県羽咋体育館完成

羽咋ロータリークラブ発足

- 7月 能登海浜道路開通
- 10月 市民憲章制定、市の木(クロマツ)・市の花(サツキ)制定

昭和49年

- 4月 市立さつき保育所完成
- 6月 能登千里浜国民休暇村完成
- 8月 市消防署庁舎完成

昭和50年

- 3月 『羽咋市史』 (全4巻) 完成
- 4月 市立富永保育所完成
- 5月 市老人福祉センター完成

昭和51年

- 4月 市柔道館完成
- 6月 市営住宅「はまなす団地」完成
- 9月 羽咋運動公園野球場完成

昭和52年

- 6月 市立羽咋小学校新校舎完成 上水道管理センター完成
- 7月 長曽川新橋開通
- 11月 羽咋郵便局完成

県立羽松高等学校・県立羽咋女子専門学校校舎完成

昭和53年

- 3月 羽咋運動公園・弓道場・テニスコート完成
- 市立羽咋小学校体育館完成 7月 市制施行20周年記念式典

昭和54年

3月 市立羽咋公民館完成

昭和55年

- 1月 北国繊維羽咋工場で大火発生
- 6月 公営クレー射撃場完成
- 8月 市武道館完成

昭和56年

4月 市立粟ノ保保育所完成

昭和57年

- 1月 女性長寿日本一の道井ヲトさん(島出町)に名誉市民の称号贈呈
- 3月 ファミリーランド「こどもの城」完成
- 5月 市役所新庁舎竣工
- 6月 特別養護老人ホーム「眉丈園」開園
- 10月 市歴史民俗資料館開館
- 11月 能登有料道路全線開通

昭和58年

- 3月 ファミリーランド「アスレチックの森」完成
- 5月 全国植樹祭で昭和天皇が気多神社社叢をご行幸
- 8月 第1回日中友好市民訪中団結成
- 12月 吉崎・次場遺跡が国の史跡に指定される

昭和59年

- 3月 市立千里浜児童センター完成
- 4月 市立千里浜保育所完成
- 5月 市民体育館完成
- 8月 北信越国民体育大会(クレー射撃)開催

昭和60年

- 4月 市立邑知・余喜両中学校が統合し、新邑知中学校開校
- 7月 豪雨により邑知潟周辺が浸水の被害
- 8月 全国高等学校総合体育大会「剣道競技」開催
- 12月 市民憲章推進基金が公益信託化

昭和61年

- 2月 島出町に雇用促進住宅が完成
- 3月 群馬県藤岡市と姉妹都市提携
- 7月 羽咋市日中友好訪中団が南通市訪問

昭和62年

- 4月 市ソフトボール場完成
- 7月 ジェットスキーin千里浜を初開催

昭和63年

3月 市2人目の名誉市民に上井彦之焏氏(初代羽咋市長)決定

羽昨市のあゆみ〔1989~2008(平成元年~20年)〕

- 4月 シルバー人材センター事務所開設
- 5月 羽咋簡易裁判所羽咋区検察庁廃止 第1回千里浜ちびっこ駅伝大会開催
- 7月 市制施行30周年記念式典 天皇陛下・皇后陛下(当時は皇太子・妃殿下)が来羽
- 10月 羽咋勤労者総合福祉センター完成
- 11月 市長に塩谷一雄氏就任

平成元年

- 3月 県立羽咋女子専門学校閉校
- 4月 市立一ノ宮・上甘田両小学校が統合し、西北台小学校開校
- 11月 半島会議 '89開催

平成2年

- 3月 市の鳥 (ハクチョウ) 制定
- 4月 市立一ノ宮公民館完成 汐見大橋完成
- 11月 羽咋運動公園内で「宇宙とUFO国際シンポジウム」開催
- 12月 市立上甘田コミュニティセンター完成

平成3年

9月 JR七尾線電化開業(羽咋駅に特急停車) 滝港マリーナ完成、第46回国民体育大会開催(ヨット・クレー射撃・剣道)

平成4年

- 6月 老人訪問看護ステーション開所
- 8月 「ソーラーカーラリーイン能登」開催
- 10月 第7回国民文化祭「石川映像祭」「短歌大会」開催

平成5年

- 3月 ちびっこ自然センターオープン
- 4月 JR羽咋駅東改札口供用開始
- 5月 羽咋浄化センター完成
- 6月 白鷺公園開園
- 7月 市立千里浜公民館完成
- 10月 市民憲章制定20周年記念式典
- 11月 まちづくりシンポジウム「みんなで築こう住みよいまち羽咋」開催
- 12月 老人福祉計画スタート

平成6年

- 3月 統合市立余喜保育所完成
- 4月 すぱーく羽咋オープン 集落排水中邑知地区処理場供用開始
- 7月 し尿処理施設完成
- 8月 '94千里浜砂の祭典開催
- 11月 千里浜宅地造成地分譲

平成7年

4月 市立神子原・飯山両小学校が統合し、邑知小学校開校 眉丈台地自然緑地公園キャンプ場オープン

平成8年

- 4月 ユーフォリア千里浜オープン
- 7月 コスモアイル羽咋オープン
- 11月 勤労者総合スポーツ施設完成 市長に本吉達也氏就任

平成9年

- 1月 ナホトカ号重油流出事故発生
 - 3月 宇宙&UFO国際会議開催
- 4月 神子原スポーツセンター完成
- 8月 全国マリンスポーツフェア開催
- 12月 中国通州市代表団が来羽

平成10年

- 4月 県羽咋体育館が羽咋市に譲渡
- 7月 市制施行40周年記念式典 市民海外派遣団が中国を訪問
- 10月 市情報公開条例がスタート
- 11月 市立羽咋中学校が創立50周年 先端医学薬学研究センター開所

平成11年

1月 「河北・なぎさ千里浜海岸保全期成同盟会」設立総会開催

- 2月 市立学校給食共同調理場完成
- 5月 眉丈台地自然緑地公園完成 吉崎・次場弥生公園開園

平成12年

- 4月 ISO14001 (環境マネジメントシステム) 認証取得 「在宅総合サービスステーション」 開設
- 6月 地域循環バス運転開始
- 8月 市青少年海外派遣団、中国を訪問

平成13年

- 1月 健康都市宣言
- 4月 羽咋市男女が共に輝く21世紀のまちづくり条例施行
- 5月 羽咋市訪中団、通州市で友好都市の調印式
- 12月 鹿島バイパス全線開通

平成14年

- 3月 中国·通州市友好代表団来羽
- 4月 市立粟ノ保小学校新校舎棟完成
- 10月 パセオ通り(旧銀座通り)の整備完了
- 12月 羽咋市まちづくり基本条例施行

平成15年

- 1月 市立こすもす保育園完成
- 2月 羽咋・志雄・押水の住民が各市町に合併協議会設置請求(住民発議)を行う
- 3月 酒井浄化センター通水式 クリンクルはくい完成
- 4月 羽咋川潮止水門完成

アウトドア・イベント「TRY&CARRY(トライ アンド キャリー)」開催

- 9月 折口信夫博士没後50年記念事業開催
- 10月 市民憲章制定30周年記念式典

平成16年

- 3月 広域基幹農道(邑知潟大橋)供用開始 とき保育園完成
- 5月 邑知の郷公園開園
- 9月 「500万人トーチラン」(石川大会羽咋会場)を開催
- 10月 総合型スポーツクラブ「バモスはくい」設立
- 11月 市長に橋中義憲氏就任

平成17年

- 3月 さくら橋(旧羽咋川水門橋)完成
- 4月 鹿島路ふれあいセンター開設 福水町地内で大規模地すべり発生 神子原米棚田オーナー制度の開始
- 7月 柴垣海水浴場の閉鎖
- 10月 ローマ法王に神子原米とお神酒を献上

平成18年

- 3月 『羽咋のむかしばなし』発行
- 4月 市立富永・越路野・鹿島路小学校が統合し、瑞穂小学校開校 市立邑知保育園開園
- 5月 眉丈台地スポーツ広場開設
- 8月 羽咋まつりで羽咋神社の大神輿が45年ぶりに渡御
- 10月 シンポジウム「"古代寺家遺跡のナゾ"をさぐる。」を開催
- 11月 美しい國能登から考えるみちづくりシンポジウム開催

平成19年

- 3月 能登半島地震発生
- 5月 中国・通州市友好代表団来羽
- 7月 神子原農産物直売所開所
- 11月 なぎさ国際シンポジウム開催

平成20年

- 4月 観光ボランティアガイド「歴史ロマンこんちま羽咋」活動開始
- 7月 市制施行50周年記念式典 『新修羽咋市史近現代通史編』刊行
- 11月 市長に山辺芳宣氏就任
- ※平成21年からの主な出来事は3分、5分を参照。

